

今回のテーマ

とおとうみこくぶんじ

遠江国分寺

とおとうみこくぶんじ

遠江国分寺とは

奈良時代の、聖武天皇は当時の社会不安(病気や争いなど)を仏教の力で鎮めようと考え、都のある奈良に東大寺を建て大仏をつくらせました。そして、国ごとに国分寺を建てるように指示しました。そのひとつが「遠江国分寺」です。

遠江国は、現在の静岡県西部地域にあたります。当時その中心地であった現在の磐田市に、遠江国でもっとも重要なお寺が建てられました。



とおとうみこくぶんじ

ばしょひろ

遠江国分寺の場所・広さ



とうざい
東西
172m

なんぼく
南北
259m

25mプール、
約142倍の広さ(※)

(※) 25mプールを一般的なサイズ
25m×約12.5mとした場合

塔



回廊

金堂

中門

南大門

遠江国分寺の跡地には、もう奈良時代の建物は残っていません。しかし、地表や地面の下にはかつての痕跡が今でも残っています。

およそ70年前の発掘調査で遠江国分寺が貴重な遺跡であることがわかったと、国は遠江国分寺跡を国の特別史跡に指定しました。

特別史跡とは、日本の宝物と国に認められている大変貴重な遺跡のことです。みんなで遠江国分寺跡を大切に守っていきましょう。

しら

調べてみよう

①現地に行くと何があるんだろう？

②建物は何に使われていたんだろう？

磐田市のホームページや中央図書館の電子図書館で公開中のパンフレットなどで詳しく紹介しています。埋蔵文化財センターでは遠江国分寺出土遺物なども展示中！

令和7年10月25日(土)には
遠江国分寺跡で、国分寺まつりが
開催されるよ。

文化財課テントで本物の瓦を
さわれます！

詳しくは
公式HPを
チェック！



文化財課イメージキャラクターともちゃん

とおとうみこくぶんじあと

遠江国分寺跡から 見つかったもの



かわら
瓦

これらは、建物の屋根にならべられていたものです。奈良時代の人々にとって、瓦を使った建物は珍しいものでした。

そぞう 塑像



左の写真は、粘土で作られた高さ約8cmの仏像の頭です。塔の跡地から発見されたものの1つです。

もくそうきだん 木装基壇

基壇とは、建物の土台部分のことです。奈良時代には石や瓦で土台を囲むことが多いのですが、遠江国分寺では土台を木で囲んでいたようです。



遠江国分寺金堂木装基壇